



## システム メッセージ ログिंगの設定

この章では、デバイス上でシステム メッセージ ログिंगを設定する方法について説明します。

この章では、次の内容について説明します。

- 「システム メッセージ ログिंगの概要」 (P.12-1)
- 「システム メッセージ ログिंग ファシリティ」 (P.12-2)
- 「注意事項および制約事項」 (P.12-5)
- 「注意事項および制約事項」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定」 (P.12-5)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定確認」 (P.12-14)
- 「システム メッセージ ログिंगの設定例」 (P.12-18)
- 「デフォルト設定」 (P.12-18)
- 「その他の関連資料」 (P.12-18)

## システム メッセージ ログिंगの概要

システム メッセージ ログングを使用すると、システム プロセスが生成するメッセージの宛先を制御し、重大度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。端末セッション、ログ ファイル、およびリモート システム上の syslog サーバへのログングを設定できます。

システム メッセージ ログングは RFC 3164 に準拠しています。システム メッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デバイスはデフォルトで、端末セッションにメッセージを出力します。端末セッションへのログングの設定については、「端末セッションへのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-5) を参照してください。

表 12-1 で、システム メッセージに使用する重大度について説明します。重大度を設定すると、そのレベルとそれより下位レベルのメッセージが出力されます。

表 12-1 システム メッセージの重大度

| レベル        | 説明        |
|------------|-----------|
| 0 : 緊急事態   | システムは使用不能 |
| 1 : アラート   | 即時対処が必要   |
| 2 : クリティカル | クリティカル条件  |

表 12-1 システム メッセージの重大度 (続き)

| レベル      | 説明         |
|----------|------------|
| 3 : エラー  | エラー条件      |
| 4 : 警告   | 警告条件       |
| 5 : 通知   | 正常だが重要な条件  |
| 6 : 情報   | 情報目的のメッセージ |
| 7 : デバッグ | デバッグ時限定の表示 |

デバイスは重大度 0、1、または 2 のメッセージのうち、最新の 100 メッセージを NVRAM ログに記録します。NVRAM へのログイングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティとメッセージの重大度に基づいて、記録するシステム メッセージを設定できます。ファシリティについては、「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2)を参照してください。モジュールおよびファシリティごとの重大度の設定については、「モジュールのシステム メッセージ ログイングの設定」(P.12-7)を参照してください。

syslog サーバは、syslog プロトコルに基づいてシステム メッセージを記録するように設定されたりモートシステム上で動作します。最大 3 つの syslog サーバを設定できます。syslog サーバの設定については、「syslog サーバの設定」(P.12-11)を参照してください。



(注)

最初のデバイス初期化時に、メッセージが syslog サーバに送信されるのは、ネットワークの初期化後です。

## システム メッセージ ログイング ファシリティ

表 12-2 に、システム メッセージ ログイング コンフィギュレーションで使用できるファシリティの一覧を示します。

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ

| ファシリティ      | 説明                 |
|-------------|--------------------|
| aaa         | AAA マネージャ          |
| aclmgr      | ACL マネージャ          |
| adjmgr      | 隣接マネージャ            |
| all         | すべてのファシリティを表すキーワード |
| arbiter     | アービター マネージャ        |
| arp         | ARP マネージャ          |
| auth        | 許可システム             |
| authpriv    | プライベート許可システム       |
| bootvar     | Bootvar            |
| callhome    | Call home マネージャ    |
| capability  | MIG ユーティリティ デーモン   |
| cdp         | CDP マネージャ          |
| cert-enroll | 証明書登録デーモン          |

表 12-2 システム メッセージ ログング ファシリティ (続き)

| ファシリティ      | 説明                        |
|-------------|---------------------------|
| cfs         | CFS マネージャ                 |
| clis        | CLIS マネージャ                |
| cmpproxy    | CMP プロキシ マネージャ            |
| copp        | CoPP マネージャ                |
| core        | コア デーモン                   |
| cron        | cron および at スケジューリング サービス |
| daemon      | システム デーモン                 |
| dhcp        | DHCP マネージャ                |
| diagclient  | GOLD 診断クライアント マネージャ       |
| diagmgr     | GOLD 診断マネージャ              |
| eltm        | ELTM マネージャ                |
| ethpm       | イーサネット PM マネージャ           |
| evmc        | EVMC マネージャ                |
| evms        | EVMS マネージャ                |
| feature-mgr | Feature マネージャ             |
| fs-daemon   | Fs デーモン                   |
| ftp         | ファイル転送システム                |
| glbp        | GLBP マネージャ                |
| hsrp        | HSRP マネージャ                |
| im          | IM マネージャ                  |
| ipconf      | IP コンフィギュレーション マネージャ      |
| ipfib       | IP FIB マネージャ              |
| kernel      | OS カーネル                   |
| l2fm        | L2 FM マネージャ               |
| l2nac       | L2 NAC マネージャ              |
| l3vm        | L3 VM マネージャ               |
| license     | ライセンス マネージャ               |
| local0      | Local use daemon          |
| local1      | Local use daemon          |
| local2      | Local use daemon          |
| local3      | Local use daemon          |
| local4      | Local use daemon          |
| local5      | Local use daemon          |
| local6      | Local use daemon          |
| local7      | Local use daemon          |
| lpr         | ライン プリンタ システム             |
| m6rib       | M6RIB マネージャ               |
| mail        | メール システム                  |

表 12-2 システム メッセージ ログイング ファシリティ (続き)

| ファシリティ        | 説明                      |
|---------------|-------------------------|
| mfdm          | MFDM マネージャ              |
| module        | モジュール マネージャ             |
| monitor       | イーサネット SPAN マネージャ       |
| mrrib         | MRIB マネージャ              |
| mvsh          | MVSH マネージャ              |
| news          | USENET ニュース             |
| nf            | NF マネージャ                |
| ntp           | NTP マネージャ               |
| otm           | GLBP マネージャ              |
| pblr          | PBLR マネージャ              |
| pfstat        | PFSTAT マネージャ            |
| pixm          | PIXM マネージャ              |
| pixmc         | PIXMC マネージャ             |
| pktmgr        | パケット マネージャ              |
| platform      | プラットフォーム マネージャ          |
| pltfm_config  | PLTFM コンフィギュレーション マネージャ |
| plugin        | プラグイン マネージャ             |
| port-channel  | ポート チャネル マネージャ          |
| port_client   | ポート クライアント マネージャ        |
| port_lb       | 診断ポート ループバック テスト マネージャ  |
| qengine       | Q エンジン マネージャ            |
| radius        | RADIUS マネージャ            |
| res_mgr       | リソース マネージャ              |
| rpm           | RPM マネージャ               |
| security      | セキュリティ マネージャ            |
| session       | セッション マネージャ             |
| spanning-tree | スパニング ツリー マネージャ         |
| syslog        | 内部 syslog マネージャ         |
| sysmgr        | システム マネージャ              |
| tcpudp        | TCP および UDP マネージャ       |
| u2            | U2 マネージャ                |
| u6rib         | U6RIB マネージャ             |
| ufdm          | UFDM マネージャ              |
| urib          | URIB マネージャ              |
| user          | ユーザ プロセス                |
| uucp          | UNIX 間コピー システム          |
| vdc_mgr       | VDC マネージャ               |
| vlan_mgr      | VLAN マネージャ              |

表 12-2 システム メッセージ ログング ファシリティ (続き)

| ファシリティ      | 説明                |
|-------------|-------------------|
| vmm         | VMM マネージャ         |
| vshd        | VSHD マネージャ        |
| xbar        | XBAR マネージャ        |
| xbar_client | XBAR クライアント マネージャ |
| xbar_driver | XBAR ドライバ マネージャ   |
| xml         | XML エージェント        |

## 注意事項および制約事項

システム メッセージは、デフォルトでコンソールおよびログ ファイルに記録されます。

## システム メッセージ ログングの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「端末セッションへのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-5)
- 「端末セッションのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元」 (P.12-7)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-7)
- 「モジュールのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元」 (P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログングの設定」 (P.12-9)
- 「ファシリティのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元」 (P.12-11)
- 「syslog サーバの設定」 (P.12-11)
- 「サーバのシステム メッセージ ログングのデフォルトの復元」 (P.12-12)
- 「UNIX または Linux システムを使用したログングの設定」 (P.12-13)
- 「ログ ファイルの表示」 (P.12-13)



(注)

Cisco Nexus 1000V コマンドは Cisco IOS コマンドと異なる場合がありますので注意してください。

## 端末セッションへのシステム メッセージ ログングの設定

重大度に基づいて、コンソール、Telnet、および SSH セッションにメッセージを記録するには、ここに示す手順を実行します。

### 始める前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行しておく必要があります。

- デフォルトでは、端末セッションでのログングがイネーブルです。

## 手順の概要

1. terminal monitor
2. config t
3. logging console [severity-level]
4. show logging console
5. logging monitor [severity-level]
6. show logging monitor
7. copy running-config startup-config

## 手順の詳細

|       | コマンド  | 目的  |
|-------|---|---|
| ステップ1 | <b>terminal monitor</b><br><br>例：<br>n1000v# terminal monitor<br>n1000v#                                  | デバイスがコンソールにメッセージを記録できるようにします。   |
| ステップ2 | <b>config t</b><br><br>例：<br>n1000v# config t<br>n1000v(config)#  | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。  |
| ステップ3 | <b>logging console</b> [severity-level]<br><br>例：<br>n1000v(config)# logging console 2<br>n1000v(config)# | 指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをコンソールセッションに記録するように、デバイスを設定します。重大度は表 12-1 に示したとおり、0～7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 2 が使用されます。                          |
| ステップ4 | <b>show logging console</b>   | (任意) コンソール ログイングの設定を表示します。  |
| ステップ5 | <b>logging monitor</b> [severity-level]<br><br>例：<br>n1000v(config)# logging monitor 3<br>n1000v(config)# | デバイスが指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをモニタに記録できるようにします。この設定は、Telnet および SSH セッションに適用されます。重大度は表 12-1 に示したとおり、0～7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 2 が使用されます。 |
| ステップ6 | <b>show logging monitor</b>   | (任意) モニタ ログイングの設定を表示します。  |
| ステップ7 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例：<br>n1000v(config)# copy running-config startup-config | (任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。   |

例：

```
n1000v# terminal monitor
n1000v# config t
n1000v(config)# logging console 2
n1000v(config)# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: critical)
n1000v(config)# logging monitor 3
n1000v(config)# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)#
n1000v(config)# copy running-config startup-config
```

## 端末セッションのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

端末セッションのシステム メッセージ ログिंगのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

| コマンド   | 説明   |
|--|--|
| <b>no logging console</b> [ <i>severity-level</i> ]<br><br>例：<br>n1000v(config)# no logging console<br>n1000v(config)#   | デバイスによるコンソールへのメッセージのログ<br>ングをディセーブルにします。         |
| <b>no logging monitor</b> [ <i>severity-level</i> ]<br><br>例：<br>n1000v(config)# no logging monitor 3<br>n1000v(config)# | Telnet および SSH セッションへのメッセージ ログ<br>ングをディセーブルにします。 |

## モジュールのシステム メッセージ ログिंगの設定

モジュールごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ ユニットを設定するには、ここに示す手順を実行します。

始める前に

手順の概要

1. **config t**
2. **logging module** [*severity-level*]
3. **show logging module**
4. **logging timestamp** {*microseconds* | *milliseconds* | *seconds*}
5. **show logging timestamp**

## 6. copy running-config startup-config

## 手順の詳細

|       | コマンド   | 目的   |
|-------|--|--|
| ステップ1 | <code>config t</code><br><br>例：<br>n1000v# config t<br>n1000v(config)#   | CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ2 | <code>logging module [severity-level]</code><br><br>例：<br>n1000v(config)# logging module 3   | 指定された重大度以上のモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。重大度を指定しなかった場合は、デフォルトの 5 が使用されます。 |
| ステップ3 | <code>show logging module</code>   | (任意) モジュール ログイング設定を表示します。  |
| ステップ4 | <code>logging timestamp {microseconds   milliseconds   seconds}</code><br><br>例：<br>n1000v(config)# logging timestamp microseconds | ログイング タイムスタンプ ユニットを設定します。デフォルトの単位は秒です。   |
| ステップ5 | <code>show logging timestamp</code>  | (任意) 設定されているログイング タイムスタンプ ユニットを表示します。  |
| ステップ6 | <code>copy running-config startup-config</code><br><br>例：<br>n1000v(config)# copy running-config startup-config                    | (任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。  |

次に、モジュールのシステム メッセージ ログイングを設定する例を示します。

```
例：
n1000v# config t
n1000v(config)# logging module 3
n1000v(config)# show logging module
Logging linecard:                enabled (Severity: errors)
n1000v(config)# logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:                Microseconds
n1000v(config)# copy running-config
```



## モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルト設定を復元するには、CLI グローバル コンフィギュレーション モードで次のコマンドを実行します。

| コマンド   | 説明                                      |
|--|---|
| <b>no logging module</b> [ <i>severity-level</i> ]<br><br><b>例:</b><br>n1000v(config)# no logging module 3<br>n1000v(config)#                                    | モジュールのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの重大度を復元します。 |
| <b>no logging timestamp</b> { <i>microseconds</i>   <i>milliseconds</i>   <i>seconds</i> }<br><br><b>例:</b><br>n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds | ログング タイムスタンプ ユニットをデフォルトの秒にリセットします。      |

## ファシリティのシステム メッセージ ログिंगの設定

ファシリティごとに記録されるメッセージの重大度とタイムスタンプ ユニットを設定するには、ここに示す手順を実行します。

### 始める前に

### 手順の概要

1. **config t**
2. **logging level** *facility severity-level*
3. **show logging level** [*facility*]
4. **logging timestamp** {*microseconds* | *milliseconds* | *seconds*}
5. **show logging timestamp**
6. **copy running-config startup-config**

### 手順の詳細

|        | コマンド  | 目的                               |
|--------|---|----------------------------------|
| ステップ 1 | <b>config t</b><br><br><b>例:</b><br>n1000v# config t<br>n1000v(config)# | CLI グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。 |

|        | コマンド  | 目的  |
|--------|---|---|
| ステップ 2 | <pre>logging level facility severity-level</pre> <p>例 :</p> <pre>n1000v(config)# logging level aaa 3 n1000v(config)#</pre>                | <p>指定されたファシリティからの、指定した重大度以上のメッセージ ログイングをイネーブルにします。ファシリティについては、「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照してください。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。すべてのファシリティに同じ重大度を適用する場合は、facility に <b>all</b> を使用します。デフォルトについては、<b>show logging level</b> コマンドを参照してください。</p> |
| ステップ 3 | <pre>show logging level [facility]</pre> <p>例 :</p> <pre>n1000v(config)# show logging level aaa</pre>                                     | <p>(任意) ファシリティ別に、ログイング レベルの設定およびシステム デフォルト レベルを表示します。ファシリティを指定しなかった場合は、すべてのファシリティのレベルが表示されます。</p>   |
| ステップ 4 | <pre>logging timestamp {microseconds   milliseconds   seconds}</pre> <p>例 :</p> <pre>n1000v(config)# logging timestamp microseconds</pre> | <p>ログイング タイムスタンプ ユニットを設定します。デフォルトの単位は秒です。</p>   |
| ステップ 5 | <pre>show logging timestamp</pre>   | <p>(任意) 設定されているログイング タイムスタンプ ユニットを表示します。</p>  |
| ステップ 6 | <pre>copy running-config startup-config</pre> <p>例 :</p> <pre>n1000v(config)# copy running-config startup-config</pre>                    | <p>(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。</p>  |

ファシリティのシステム メッセージ ログイングの設定例を示します。

例 :

```
n1000v# config t
n1000v(config)# logging level aaa 3
n1000v(config)# show logging level aaa
Facility          Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa                2                      3

0 (emergencies)   1 (alerts)            2 (critical)
3 (errors)        4 (warnings)         5 (notifications)
6 (information)   7 (debugging)

logging timestamp microseconds
n1000v(config)# show logging timestamp
Logging timestamp:      Microseconds
copy running-config startup-config
```

## ファシリティのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトの復元

ファシリティのシステム メッセージ ログिंगのデフォルトを復元するには、次のコマンドを使用します。

| コマンド   | 説明   |
|--|--|
| <b>no logging level</b> [ <i>facility severity-level</i> ]<br><br><b>例:</b><br>n1000v(config)# no logging level aaa 3<br>n1000v(config)#                         | 指定したファシリティのデフォルトのログング重大度を復元します。ファシリティおよび重大度を指定しなかった場合、すべてのファシリティがそれぞれのデフォルト重大度のリセットされます。 |
| <b>no logging timestamp</b> { <i>microseconds</i>   <i>milliseconds</i>   <i>seconds</i> }<br><br><b>例:</b><br>n1000v(config)# no logging timestamp milliseconds | ログング タイムスタンプ ユニットのデフォルトの秒にリセットします。   |

## syslog サーバの設定

システム メッセージ ログングのための syslog サーバを設定するには、ここに示す手順を実行します。

### 手順の概要

1. **config t**
2. **logging server host** [*severity-level* [*use\_vrf vrf-name*]]
3. **show logging server**
4. **copy running-config startup-config**

## 手順の詳細

|       | コマンド   | 目的   |
|-------|--|--|
| ステップ1 | <b>config t</b><br><br>例：<br>n1000v# config t<br>n1000v(config)#   | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ2 | <b>logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name]]</b><br><br>例：<br>n1000v(config)# logging server 10.10.2.2 7   | 指定のホスト名または IPv4/IPv6 アドレスで syslog サーバを設定します。 <b>use_vrf</b> キーワードを使用すると、メッセージ ログイングを特定の VRF に限定できます。重大度は表 12-1 に示したとおり、0 ~ 7 の範囲で指定できます。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。<br><br>この例では、ファシリティ local 7 のすべてのメッセージを転送します。 |
| ステップ3 | <b>show logging server</b><br><br>例：<br>n1000v(config)# show logging server<br>Logging server: enabled<br>{10.10.2.2}<br>server severity: debugging<br>server facility: local7 | (任意) syslog サーバの設定を表示します。  |
| ステップ4 | <b>copy running-config startup-config</b><br><br>例：<br>n1000v(config)# copy running-config startup-config  | (任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。  |

## サーバのシステム メッセージ ログイングのデフォルトの復元

サーバのシステム メッセージ ログイングのデフォルトを復元するには、ここに示す手順を実行します。

| コマンド  | 説明                            |
|---|-------------------------------|
| <b>no logging server host</b><br><br>例：<br>n1000v(config)# no logging server host | 指定されたホストに対応するログイング サーバを削除します。 |

## UNIX または Linux システムを使用したログिंगの設定

UNIX または Linux システムでメッセージ ログिंगを設定するには、ここに示す手順を実行します。

### 始める前に

この手順を開始する前に、次の点を理解または実行しておく必要があります。

- 次に示すのは、syslog 用に設定する UNIX または Linux のフィールドです。

| フィールド    | 説明   |
|----------|--|
| Facility | メッセージの作成元。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0 ~ local7、またはすべてを表すアスタリスク (*)。これらのファシリティ指定によって、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できません。<br><br>(注) ローカル ファシリティを使用する前に、コンフィギュレーションを確認してください。 |
| Level    | メッセージを記録する最小の重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emerg、またはすべてを表すアスタリスク (*) を指定できます。ファシリティをディセーブルにする場合は、none を使用します。   |
| Action   | メッセージの宛先。ファイル名、前に @ 記号を加えたホスト名、ユーザをカンマで区切ったリスト、またはすべてのログイン ユーザを表すアスタリスク (*) を使用できます。   |

### 手順の詳細

**ステップ 1** UNIX または Linux システムで、次の内容をファイル /var/log/myfile.log に追加します。

```
facility.level <five tab characters> action
```

例 :

```
debug.local7 /var/log/myfile.log
```

**ステップ 2** シェル プロンプトに次のコマンドを入力し、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

**ステップ 3** コマンド入力後に myfile.log を調べ、システム メッセージ ログング デーモンが新しい設定変更を読み取ったかどうかを確認します。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

## ログ ファイルの表示

ログ ファイル中のメッセージを表示するには、ここに示す手順を実行します。

## 手順の概要

## 1. show logging last number-lines

## 手順の詳細

|       | コマンド                           | 目的  |
|-------|--------------------------------|---|
| ステップ1 | show logging last number-lines | ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。最終行番号として 1 ~ 9999 を指定できます。 |

## 例 :

```
n1000v# show logging last 5
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:04 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
2008 Aug 31 09:37:05 CP-beta2 %KERN-3-SYSTEM_MSG: packet_recvms
g: truncated packet (size=1514 left=1500) - kernel
n1000v#
```

## システム メッセージ ログिंगの設定確認

システム メッセージ ログिंगの設定情報を表示するには、次の作業のいずれかを行います。

| コマンド                           | 目的  |
|--------------------------------|---|
| show logging console           | コンソール ログिंगの設定を表示します。<br><a href="#">例 12-1 (P.12-15)</a> を参照してください。      |
| show logging info              | ログिंगの設定を表示します。<br><a href="#">例 12-2 (P.12-15)</a> を参照してください。            |
| show logging last number-lines | ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。<br><a href="#">例 12-3 (P.12-16)</a> を参照してください。    |
| show logging level [facility]  | ファシリティ ログिंगの重大度の設定を表示します。<br><a href="#">例 12-4 (P.12-17)</a> を参照してください。 |
| show logging module            | モジュール ログिंगの設定を表示します。<br><a href="#">例 12-5 (P.12-17)</a> を参照してください。      |
| show logging monitor           | モニタ ログिंगの設定を表示します。<br><a href="#">例 12-6 (P.12-17)</a> を参照してください。        |
| show logging server            | syslog サーバの設定を表示します。<br><a href="#">例 12-7 (P.12-17)</a> を参照してください。       |

| コマンド                          | 目的   |
|-------------------------------|--|
| <b>show logging session</b>   | ログングセッションステータスを表示します。<br>例 12-8 (P.12-17) を参照してください。             |
| <b>show logging status</b>    | ログングステータスを表示します。<br>例 12-9 (P.12-17) を参照してください。                  |
| <b>show logging timestamp</b> | 設定されているログングタイムスタンプユニットの設定を表示します。<br>例 12-10 (P.12-17) を参照してください。 |

**例 12-1** show logging console

```
n1000v# show logging console
Logging console:          disabled
n1000v#
```

**例 12-2** show logging info

```
n1000v# show logging info

Logging console:          enabled (Severity: critical)
Logging monitor:         enabled (Severity: notifications)
Logging linecard:        enabled (Severity: notifications)
Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
Logging logfile:         enabled
                        Name - g/external/messages: Severity - notifications Size - 4194304
```

| Facility         | Default Severity | Current Session Severity |
|------------------|------------------|--------------------------|
| -----            | -----            | -----                    |
| aaa              | 2                | 2                        |
| auth             | 0                | 0                        |
| authpriv         | 3                | 3                        |
| bootvar          | 5                | 5                        |
| callhome         | 2                | 2                        |
| cdp              | 2                | 2                        |
| cert_enroll      | 2                | 2                        |
| cfs              | 3                | 3                        |
| confcheck        | 2                | 2                        |
| cron             | 3                | 3                        |
| daemon           | 3                | 3                        |
| diagclient       | 2                | 2                        |
| diagmgr          | 2                | 2                        |
| eth_port_channel | 5                | 5                        |
| ethpm            | 5                | 5                        |
| evmc             | 5                | 5                        |
| evms             | 2                | 2                        |
| feature-mgr      | 2                | 2                        |
| ftp              | 3                | 3                        |
| ifmgr            | 5                | 5                        |
| igmp_1           | 3                | 3                        |
| ip               | 2                | 2                        |
| ipv6             | 2                | 2                        |
| kern             | 6                | 6                        |
| l2fm             | 2                | 2                        |
| licmgr           | 6                | 6                        |
| local0           | 3                | 3                        |
| local1           | 3                | 3                        |

## ■ システム メッセージ ログिंगの設定確認

|                |              |                  |
|----------------|--------------|------------------|
| local2         | 3            | 3                |
| local3         | 3            | 3                |
| local4         | 3            | 3                |
| local5         | 3            | 3                |
| local6         | 3            | 3                |
| local7         | 3            | 3                |
| lpr            | 3            | 3                |
| mail           | 3            | 3                |
| mfdm           | 2            | 2                |
| module         | 5            | 5                |
| monitor        | 7            | 7                |
| msh            | 2            | 2                |
| mvsh           | 2            | 2                |
| news           | 3            | 3                |
| ntp            | 2            | 2                |
| otm            | 3            | 3                |
| pblr           | 2            | 2                |
| pixm           | 2            | 2                |
| pixmc          | 2            | 2                |
| platform       | 5            | 5                |
| portprofile    | 5            | 5                |
| private-vlan   | 3            | 3                |
| radius         | 2            | 2                |
| res_mgr        | 2            | 2                |
| rpm            | 2            | 2                |
| sal            | 2            | 2                |
| securityd      | 2            | 2                |
| sksd           | 3            | 3                |
| stp            | 3            | 3                |
| syslog         | 3            | 3                |
| sysmgr         | 3            | 3                |
| ufdm           | 2            | 2                |
| urib           | 3            | 3                |
| user           | 3            | 3                |
| uucp           | 3            | 3                |
| vdc_mgr        | 6            | 6                |
| vim            | 5            | 5                |
| vlan_mgr       | 2            | 2                |
| vms            | 5            | 5                |
| vshd           | 5            | 5                |
| xmlma          | 3            | 3                |
| 0(emergencies) | 1(alerts)    | 2(critical)      |
| 3(errors)      | 4(warnings)  | 5(notifications) |
| 6(information) | 7(debugging) |                  |
| n1000v\$       |              |                  |

**例 12-3** show logging last

```

n1000v# show logging last 5
2008 Jul 29 17:52:42 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/5 is up in mode access
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/2 is up in mode trunk
2008 Jul 29 17:52:43 S22-DCOS %ETHPORT-5-IF_UP: Interface Ethernet2/4 is up in mode access
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS %SYSMGR-3-BASIC_TRACE: process_cfg_write: PID 1858 with
message rcvd cfg_action from
sap 0x545 for vdc 1 at time 1217353984 .
2008 Jul 29 17:53:04 S22-DCOS clis[2558]: CLI-3-NVDB: Batched send failed for component:
clic
n1000v#

```



**例 12-4** show logging level aaa

```
n1000v# show logging level aaa
Facility           Default Severity       Current Session Severity
-----           -
aaa                2                       2

0(emergencies)     1(alerts)              2(critical)
3(errors)          4(warnings)            5(notifications)
6(information)     7(debugging)
n1000v#
```

**例 12-5** show logging module

```
n1000v# show logging module
Logging linecard:          enabled (Severity: notifications)
n1000v#
```

**例 12-6** show logging monitor

```
n1000v# show logging monitor
Logging monitor:          enabled (Severity: errors)
n1000v#
```

**例 12-7** show logging server

```
n1000v# show logging server
Logging server:          enabled
{10.10.2.2}
server severity:        debugging
server facility:        local7
n1000v#
```

**例 12-8** show logging session status

```
n1000v# show logging session status
Last Action Time Stamp   : Fri Nov 18 11:28:55 1910
Last Action               : Distribution Enable
Last Action Result       : Success
Last Action Failure Reason : none
n1000v#
```

**例 12-9** show logging status

```
n1000v# show logging status
Fabric Distribute       : Enabled
Session State           : IDLE
n1000v#
```

**例 12-10** show logging timestamp

```
n1000v# show logging timestamp
Logging timestamp:        Seconds
n1000v#
```

## システム メッセージ ログイングの設定例

システム メッセージ ログイングの設定例を示します。

```
config t
 logging console 3
 logging monitor 3
 logging logfile my_log 6
 logging module 3
 logging level aaa 2
 logging timestamp milliseconds
 logging distribute
 logging server 172.28.254.253
 logging server 172.28.254.254 5 local3
 logging commit
 copy running-config startup-config
```

## デフォルト設定

表 12-3 に、システム メッセージ ログイング パラメータのデフォルト設定を示します。

表 12-3 システム メッセージ ログイング パラメータのデフォルト設定

| パラメータ                    | デフォルト   |
|--------------------------|---|
| コンソール ログイング              | 重大度 2 でイネーブル  |
| モニタ ログイング                | 重大度 5 でイネーブル  |
| ログ ファイル ログイング            | 重大度 5 のメッセージ ログイングがイネーブル                            |
| モジュール ログイング              | 重大度 5 でイネーブル  |
| ファシリティ ログイング             | イネーブル。重大度については「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.12-2) を参照 |
| タイムスタンプ ユニット             | 秒   |
| syslog サーバ ログイング         | ディセーブル  |
| syslog サーバ コンフィギュレーション配布 | ディセーブル  |

## その他の関連資料

システム メッセージ ログイングの実装に関連する詳細情報については、次の項を参照してください。

- 「関連資料」(P.12-19)
- 「標準規格」(P.12-19)

## 関連資料

| 関連項目            | マニュアル タイトル   |
|-----------------|--|
| システム管理 CLI コマンド | 『Cisco Nexus 1000V Command Reference, Release 4.0』 |
| システム メッセージ      | 『Cisco NX-OS System Messages Reference』            |

## 標準規格

| 標準規格   | タイトル |
|--|------|
| この機能でサポートされる新規または改訂された標準規格はありません。また、この機能による既存の標準規格サポートの変更はありません。 | —    |

